

第7回 神奈川県移動性（モビリティ）向上委員会 議事要旨

1. 日 時：平成21年3月25日（水）16：00～17：40

2. 場 所：AP 横浜駅西口 4階 E会議室

3. 出席者：出席者名簿参照

4. 議 事：

（1）第6回委員会の議事要旨

- ・特に意見はなく、承認された。

（2）要対策箇所の事業進捗状況

Q：対策実施状況一覧（とりまとめ一覧表）では、対策の段階定義が現在の3段階評価では暫定供用等の反映ができていないため、特に「実施段階」については、どの程度実施中なのかがわかる資料とする必要がある。

また、対策後開通しているところでは（例カルテ番号 6-1 江田駅東交差点）、供用後の新たな問題点が発生しており、その問題点をフォローしていくことが重要である。（委員長）

A：対策実施状況がわかりやすくなるよう修正する。（事務局）

対応内容：対策実施状況3段階を8段階に細分化した。対策後開通している所についてはPDCAのサイクルの中でフォローアップを実施している。

Q：暫定供用後は、戸塚警察署交差点等が渋滞するのではないか。（神奈川新聞社）

A：戸塚警察署交差点等、供用後のデータを観察していく予定である。（事務局）

対応内容：下り線の供用もあるので今後調査をしていく。現状については資料P7に記載のとおり。

Q：渋滞損失時間を示す県内全体の3Dマップについて、経年変化を把握できるような図があるとわかりやすいのではないか。（委員長）

A：プローブデータは、県内の全路線を対象としているものではないため、全路線に対して経年変化を把握できるかは不明だが、今後検討したい。（事務局）

対応内容：直轄路線については毎年データを更新している。それ以外の県内他路線についてはデータの取得ができていない。

Q：資料構成が良くないため、何が言いたいのがわかりにくい。特にA3の参考資料（個別カルテ）は文言や絵が多く何が問題になっているのかわからない。枚数が多いことよりも、ポイントを押さえた分かりやすい資料としてほしい。（神奈川県政モニター）

A：記者発表資料のようなイメージで作成すれば良いのではないか。（委員長）

A：課題、今後の対応、現状がわかるようなまとめ方をしたい。（事務局）

対応内容：本資料の中で説明ができるような構成とした。

参考資料（個別カルテ）については基本構成は変えていないが、地元の声を追加するなどしている。

Q：対策実施にあたっては、対策完了の目標年次を設定することが重要である。仮に目標年次に完了できなくとも、その際、〇〇の理由で完了できなかったという理由を説明することで理解が図れる。これにより、用地買収等の通常では年月がかかるものについて、住民の協力を得られる可能性がある。（神奈川県政モニター）

A：公表できるものは入れていくようにする。（事務局）

対応内容：公表できる内容は個別カルテに記載した。個別カルテ34件中19件に供用予定年次を記載。

Q：カルテ番号17の国道467号桜ヶ丘交差点において、交通量調査のデータ（渋滞長）では渋滞状況が見られるが、プローブデータ（渋滞損失時間）については渋滞状況が見られないのはなぜか。

A：手元に詳細データがないため、後日確認する。（事務局）

対応内容：プローブデータの実測値は直轄国道のみで、他の路線は平成17年度センサスを使用した推計値となっているため、交通量調査結果とは傾向が異なるように見受けられると思われる。

Q：カルテ番号5-1について、馬入橋の断面が小さいために渋滞が発生していると思われるが、拡幅は可能なのか。（神奈川県）

A：当該箇所は、馬入橋の問題もあるが、馬入交差点と工業団地入口交差点が近接していることも渋滞の原因となっている。馬入交差点の交差点改良を実施したことによる混雑状況等を今後経過観察したい。（事務局）

A：（国道1号と並走する）国道134号の4車線化による改善も期待できる。（横浜国道）

会議内で回答済み。

（3）渋滞対策としての新しい取り組み

Q：資料にある分析の視点だけでなく、高度でかつ多角的な視点をもとに、高価ではあるがParamics等のシミュレーションモデルを用いて、対策検討することも考慮してはどうか。渋滞のボトルネック箇所に対する渋滞の状況について、シミュレーションツールを用いることで可視化でき、分かりやすい説明を行うことができる。（委員長）

A：今後検討する。（事務局）

対応内容：対応策に限りがあり、その効果はシミュレーションを行わなくても定性的に把握可

能なのでシミュレーションは行っていない。

(4) 今後の進め方

Q：パブリックコメントは、行政と県民とのコミュニケーションツールであるため、あくまでもフェイスツーフェイス（面と向かって対話すること）が大前提であり、その次に実施方法や評価方法等が重要となる。また、アンケートも大事であるが、住民とのミーティングを何回も重ねることで、また、パンフレットやリーフ等で広報することで、県民への理解がより深まると考える。（委員長）

A：原宿交差点や江田東交差点で実施している（工事完了を告知する）カウントダウン看板の事例も踏まえ、県民とのコミュニケーション方法を検討していきたい。（事務局）

対応内容：看板は一部改良箇所を設置を行い、今回の渋滞対策についてもパブリックコメントを今後実施していく。

Q：PDCAについては、県内一律ではなく事業主体毎で手法を変えてもよいのか。（横浜市）

A：PDCAの手法については各管理者にまかせることとする。（事務局）

会議で回答済み。

(5) 高速道路料金の引き下げについて

- ・高速道路料金の引き下げについて、実施時期、料金等の説明を実施。（事務局）
- ・当該施策は休日の引き下げであり、今後は変化が予想される休日のプローブデータを取得し検証していくことが重要である。（委員長）

以上